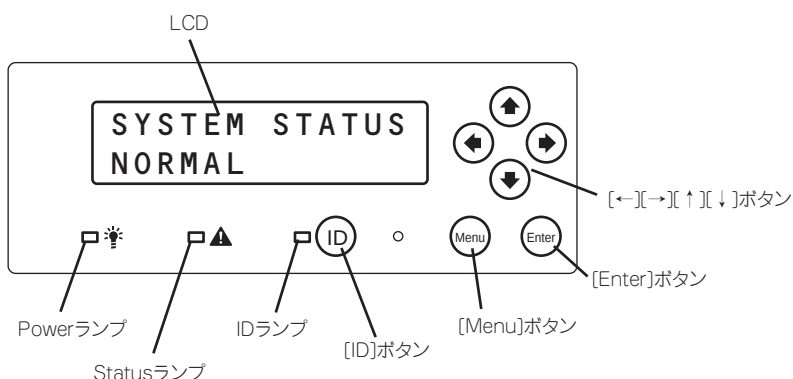


5. SIGMABLADEモニターの使用方

ここでは、SIGMABLADEモニターの使用方について説明します。

SIGMABLADEモニター各部の名称

SIGMABLADEモニターはLCD、ボタン、LEDランプから構成され、ボタン操作によりメニュー形式で各種機能を提供します。



ランプ表示

EMカードが接続され正常に動作している場合はEMカードがランプ表示を制御します。

ランプ名	表示	意味
Powerランプ	緑色点灯	ブレード収納ユニットの電源がONのとき点灯します。
	消灯	ブレード収納ユニットの電源がOFFのとき消灯します。
Statusランプ	緑色点灯	ブレード収納ユニットの電源がONで、すべてのモジュールが正常に動作しているとき緑色に点灯します。
	アンバー色点灯	一部のモジュールに異常がある場合にアンバー色に点灯します。
	赤色点灯	しばらくお待ちください。診断終了後、緑色に変わります。 致命的な故障が発生している場合に赤色点灯します。EMカードが正しく接続されていないか正常に動作していない場合も赤色に点灯します。LCDの表示を確認してください。
IDランプ	青色点灯	[ID]ボタン押下、またはリモートからIDランプの点灯指示があった場合に点灯します。
	消灯	点灯中に[ID]ボタンを押下すると消灯します。

SIGMABLADEモニターの操作

ブレード収納ユニットに搭載された操作パネル(操作ボタン、LCD、LED)により、システムステータスの表示やCPUブレードの状態表示などの機能が提供されます。
各機能は、操作ボタンを使いメニュー形式の画面にて提供されます。

トップ画面

ブレード収納ユニットの電源がONになり、SIGMABLADEモニターの診断が終了すると下記のようにLCD上段にタイトル、下段にシステム全体のステータスを表示します。

```
SYSTEM STATUS  
NORMAL
```

メインメニュー

トップ画面で[Menu]ボタンを押下すると、下記に示すメインメニューが表示されます。

```
Main Menu  
1 : KVM / DVD Sel ↓
```

[↓]ボタンまたは[↑]ボタンを押下することで、カーソルを上下に移動させることができます。
画面は以下のようにスクロールします。

```
1 : KVM / DVD Sel ↑  
2 : System INFO ↓
```

↓ ↑

```
2 : System INFO ↑  
3 : Blade INFO ↓
```

↓ ↑

```
3 : Blade INFO ↑  
4 : SWM INFO ↓
```

↓ ↑

```
4 : SWM INFO ↑  
5 : System CONFIG ↓
```

↓ ↑

```
5 : System CONFIG ↑  
6 : Collect LOG
```

目的のメニューにカーソルを合わせて [Enter] ボタンを押下すると、選択したサブメニューに移行します。



下にスクロール可能な場合は「↓」を、上にスクロール可能な場合は「↑」を最右端コラムに表示します。

KVM/DVDの切り替え

メインメニューで「1:KVM/DVD Sel」を選択すると、下記のようなKVM/DVD選択画面を表示します。

KVM/DVD Select
KVM: 4 DVD: 8

数字は、現在接続されているCPUブレードのスロット番号を表します。



- 上記の例では、ローカルKVMがスロット4のCPUブレードに接続されていて、ローカルDVDとローカルUSBポートがスロット8のCPUブレードに接続されている状態を表しています。
- ブレード収納ユニットを電源ONしたときの初期状態ではKVM/DVDにはスロット1が選択されています。
- DVDの選択で、“E”を選択するとEMカードからDVD/USBが使用可能となります。EMファームウェアのアップデートやEMログ採取を行う場合に選択します。なお、“E”を選択中は、どのCPUブレードからも利用できない状態になりますので、ご注意ください。



- EMカードが正しく接続されていないか正常に動作していない場合は、保護機能によりKVM、DVD/USBの接続を行わない場合があります。操作したいCPUブレードを正しく選択してもKVM、DVD/USBが使用できない場合はEMカードが正常に動作しているか確認してください。
- CPUブレードでDVD/USB接続機器を操作しているときにDVD/USB切り替えを行うと誤動作する可能性があります。CPUブレードでの操作を終了してから切り替えを行ってください。
- CPUブレードの起動中にKVM、DVD/USBを接続したり、切り離したりしないでください。CPUブレードが正常に起動できない場合があります。

[↓]ボタンまたは[↑]ボタンを押下することで、カーソル上の数字を1～8の範囲で1つずつ変更できます。

[→]ボタンまたは[←]ボタンを押下することで、カーソルを左右に移動させ、KVMの選択とDVDの選択を変更することができます。

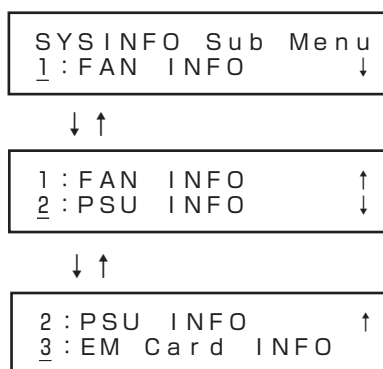
設定後、[Enter]ボタンを押下することで入力を確定して、メインメニューに戻ります。また、[Menu]ボタンを押下することで、設定変更せずにメインメニューに戻ります。

システム情報表示

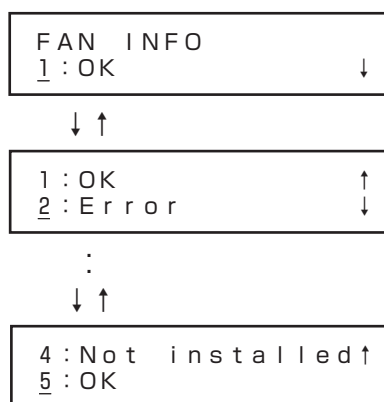
FAN／電源の状態表示

ブレード収納ユニットのFANユニットスロットの状態(搭載の有無)と電源ユニットスロットの状態(搭載の有無)を表示します。

メインメニューで「2:SYSTEM INFO」を選択すると、下記に示すシステム情報サブメニューが表示されます。



「1:FAN INFO」を選択すると、下記のように各FANユニットスロットの状態を示します。



ヒント

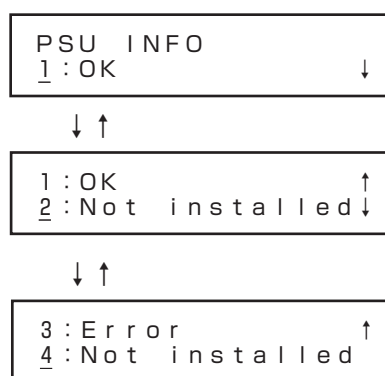
スロット番号、搭載状態という順番で表示されます。FANユニットが搭載されており正常に動作中であれば“OK”と表示し、FANユニットが搭載されているが故障中であれば“Error”と表示されます。FANユニットが搭載されていなければ“Not installed”と表示されます。



重要

“Error”と表示された際の対処方法は、ブレード収納ユニットのユーザズガイドに従って該当するFANユニットを交換してください。

「SYSINFO Sub Menu」で「1:PSU INFO」を選択すると、下記のように各電源ユニットスロットの状態を示します。



スロット番号、搭載状態という順番で表示されます。電源ユニットが搭載されており正常に動作中であれば“OK”と表示し、電源ユニットは搭載されているが故障中であれば“Error”と表示されます。電源ユニットが搭載されていなければ“Not installed”と表示されます。



“Error”と表示された際の対処方法は、ブレード収納ユニットのユーザズガイドに従って該当する電源ユニットを交換してください。

EMカード情報の表示

ブレード収納ユニットのEMカードスロットの状態(搭載の有無、アクティブ/スタンバイ、EMファームウェアレビジョン)を表示します。

「SYSINFO Sub Menu」で「3:EM Card INFO」を選択すると、下記のように各EMカードスロットの状態を示します。

EM Card INFO Sub	
1 : EM1	↓

↓ ↑

1 : EM1	↑
2 : EM2	



EMカードが搭載されていない場合は“Not installed”と表示されます。

「1:EM1」あるいは「2:EM2」の位置にカーソルを合わせて[Enter]ボタンを押下することで、選択したEMカードのアクティブ/スタンバイ、EMファームウェアレビジョンを下記のように表示します。

EM1 INFO	
A/S : Active	↓

↓ ↑

A/S : Active	↑
FW REV : 02.00	



EM1とEM2でファームウェアレビジョンが異なっている場合は、後述する方法で、新しいファームウェアレビジョンの方に合わせて、アップデートしてご利用してください。

CPUブレード情報表示

仮想LCDの表示

ブレード収納ユニットに搭載されているCPUブレードの仮想LCDの内容を表示することができます。

「Blade INFO」画面で、[↓]、[↑]ボタンを押下して、表示させたいCPUブレードのスロット番号の位置にカーソルを移動させ、[Enter] ボタンを押下することで、選択したCPUブレードの仮想LCDの内容が表示されます。(下記は、一例です)

P r e p a r e T o B o o t

[Menu]ボタンを押下することで、メインメニューに戻ります。

[←]ボタンを押下することで、「Blade INFO」に戻ります。



仮想LCDをサポートしていないCPUブレードの場合は、“Not supported”と表示されます。
また、仮想LCDの情報取得に失敗した場合は、“Error”と表示されます。

CPUブレードの状態表示

ブレード収納ユニットのCPUブレードスロットの状態(搭載の有無、ブレードの電源状態、ステータスLEDの状態)を表示します。

メインメニューで「3:Blade INFO」を選択すると下記のように各CPUブレードスロットの状態を示します。

Blade INFO			↓
<u>1</u>	: ON	Good	
			↓ ↑
1	: ON	Good	↑
<u>2</u>	: OFF	Good	↓
			↓ ↑
7	: ON	Critical	↑
<u>8</u>	: Not	installed	



動作状態には、Good (CPUブレードは正常に動作)/Degraded (CPUブレード内で縮退が発生)/Critical (CPUブレード内で異常が発生)の3種類があります。CPUブレードが搭載されていない場合は、スロット番号の後に“Not installed”と表示されます。



- "Degraded"/"Critical"と表示された際の対処方法は、CPUブレードのユーザーズガイドを参照してください。
- Express5800/120Bb-m6のような 2スロット幅を占有する CPUブレードを実装した場合、実装した右側のスロットの表示は「Not installed」と表示されます。

スイッチモジュール情報表示

スイッチモジュールの状態表示

ブレード収納ユニットのスイッチモジュールスロットの状態(搭載の有無、スイッチモジュールの電源状態、ステータスLEDの状態)を表示します。

メインメニューで「4:SWM INFO」を選択すると下記のように各スイッチモジュールスロットの状態を示します。

SWM INFO		
1	: ON Good	↓
↓ ↑		
1	: ON Good	↑
2	: OFF Good	↓
⋮		
↓ ↑		
7	: ON Critical	↑
8	: Not installed	



スイッチモジュールが搭載されている場合は、スロット番号、電源状態、動作状態という順番で表示されます。動作状態には、Good(スイッチモジュールは正常に動作)/Degraded(スイッチモジュール内で縮退が発生)/Critical(スイッチモジュール内で異常が発生)の3種類があります。スイッチモジュールが搭載されていない場合は、スロット番号の後に“Not installed”と表示されます。



- "Degraded"/"Critical"と表示された際の対処方法は、スイッチモジュールのユーザーズガイドを参照してください。
- 2スロット幅を占有するスイッチモジュールを実装した場合、実装した右側のスロットの表示は「Not installed」と表示されます。

システムの設定

EMの設定

EM自身のIPアドレスの設定や本SIGMABLADEモニターのパスワードの設定を行います。

メインメニューで「5:SYSTEM CONFIG」を選択すると下記のようなパスワード入力画面が表示されます。

Enter Password 0000

[↓]ボタンまたは[↑]ボタンを押下することで、カーソル上の数字を0～9の範囲で1つずつ変更できます。

[→]ボタンまたは[←]ボタンを押下することで、カーソルを左右に移動させることができます。

4桁すべてを設定後、[Enter]ボタンを押下することで、入力を確定します。

パスワードが一致すれば、[EM CONFIG]画面に移行します。

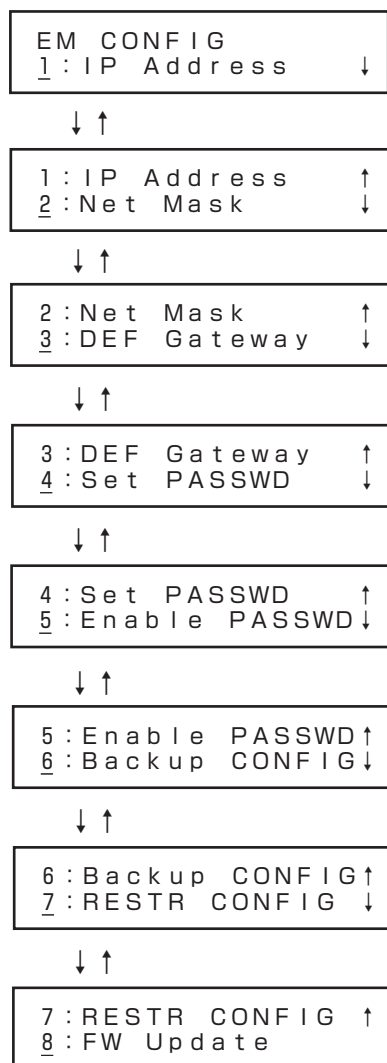
不一致の場合は、パスワード入力画面のままです。

[Menu]ボタンを押下することで、メインメニューに戻ります。



初期パスワードは“0000”です。後述する方法にて、パスワードの変更を行ってください。

[EM CONFIG]画面



「1: IP Address」を選択すると、以下のようなIPアドレス設定画面に移行します。

Set IP Address
 192. 168. 001. 010
 _



このLAN設定は、アクティブEMのフローティングIPとして反映されます。

[↓]ボタンまたは[↑]ボタンを押下することで、カーソル上の数字を0～9の範囲で1つずつ変更できます。

[→]ボタンまたは[←]ボタンを押下することで、カーソルを左右に移動させることができます。

設定後、[Enter]ボタンを押下することで、入力を確定します。

[Menu]ボタンを押下することで、メインメニューに戻ります。



<IP Address>の最後の数値は4の倍数になっていますか？
4の倍数でない場合、E Mカード側で下位2ビットを00bとして設定します。

[EM CONFIG]画面で、「2: Net Mask」を選択すると、以下のようなサブネットマスク設定画面に移行します。

```
Set Net Mask
255.255.255.000
```

[↓]ボタンまたは[↑]ボタンを押下することで、カーソル上の数字を0～9の範囲で1つずつ変更できます。

[→]ボタンまたは[←]ボタンを押下することで、カーソルを左右に移動させることができます。

設定後、[Enter]ボタンを押下することで、入力を確定します。

[Menu]ボタンを押下することで、メインメニューに戻ります。

[EM CONFIG]画面で、「3: DEF Gateway」を選択すると、以下のようなデフォルトゲートウェイ設定画面に移行します。

```
Set DEF Gateway
192.168.001.254
```

[↓]ボタンまたは[↑]ボタンを押下することで、カーソル上の数字を0～9の範囲で1つずつ変更できます。

[→]ボタンまたは[←]ボタンを押下することで、カーソルを左右に移動させることができます。

設定後、[Enter]ボタンを押下することで、入力を確定します。

[Menu]ボタンを押下することで、メインメニューに戻ります。

[EM CONFIG]画面で、「4: Set PASSWD」を選択すると、以下のようなパスワード設定画面に移行します。

```
Set Password
0000
```

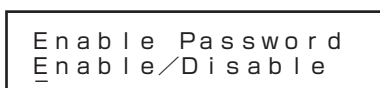
[↓]ボタンまたは[↑]ボタンを押下することで、カーソル上の数字を0～9の範囲で1つずつ変更できます。

[→]ボタンまたは[←]ボタンを押下することで、カーソルを左右に移動させることができます。

設定後、[Enter]ボタンを押下することで、入力を確定します。

[Menu]ボタンを押下することで、メインメニューに戻ります。

[EM CONFIG]画面で、「5: Enable Password」を選択すると、以下のようなパスワードを有効化／無効化する設定画面に移行します。



カーソルのある位置で設定状態を表示します。

[→]ボタンまたは[←]ボタンを押下することで、カーソルを左右に移動させることができます。

設定後、[Enter]ボタンを押下することで、入力を確定します。

[Menu]ボタンを押下することで、メインメニューに戻ります。

EM設定のバックアップ

ブレード収納ユニットのUSBポートに接続されたUSBメモリへ、EM自身の設定ファイルをバックアップします。

「EM CONFIG」画面で、「6:Backup CONFIG」を選択すると、バックアップを実行します。既にUSBメモリ上にバックアップファイルが存在する場合は、以下の上書き確認画面が表示されます。

Overwrite?
Y/N

[→],[←]ボタンを押下することで、カーソルを“Y”と“N”に移動させることができます。

上書きしてバックアップを実行する場合は、“Y”の位置にカーソルを置いて[Enter] ボタンを押下してください。

上書きせずにバックアップを中止する場合は、“N”の位置で [Enter]ボタンを押下してください。何もせずに「EM CONFIG」画面に戻ります。

バックアップ実行中は以下の画面が表示されます。

Backup ing

バックアップが終了すると結果が表示されます。

バックアップ成功時:

OK

バックアップ失敗時:

Error

USBメモリが装着されていない場合は、以下の表示となります。
ブレード収納ユニットのUSBポートにUSBメモリを装着してください。

USB Memory
Not installed

USBメモリが装着されていても、EMに接続されていない場合は、以下の表示となります。

Media
Not selected

KVK/DVD選択画面のDVDの選択で、“E”を選んでください。



- バックアップの結果や上記のエラーメッセージが表示されている状態で、何かボタンを押すと、「EM CONFIG」画面に戻ります。
- 設定ファイルはUSBメモリの先頭ディレクトリ(先頭フォルダ)に書き込まれます。ファイル名は、“backupem.tgz”となります。

EM設定のリストア

ブレード収納ユニットのUSBポートに接続されたUSBメモリから、上記の方法でバックアップしたEM自身の設定ファイルをリストアして適用します。

「EM CONFIG」画面で、「7:RESTR CONFIG」を選択すると、EM設定ファイルのリストアを実行します。

リストア実行中は以下の画面が表示されます。

Restoring CONFIG

正常に読み込みが終了すると、以下の適用確認画面が表示されます。

Apply?
Y/N

[→]、[←]ボタンを押下することで、カーソルを“Y”と“N”に移動させることができます。読み込んだ設定ファイルを適用する場合は、“Y”の位置にカーソルを置いて[Enter] ボタンを押下してください。



適用を行うとEMカードをリブートします。EMカードを2枚搭載している場合は、双方のEMカードをリブートします。リブート中は、ブリッジ機能やSNMP機能も停止しますので、CPUブレードやスイッチモジュールのマネジメントLANを介した接続が一時的に切断されます。また、ESMPRO/ServerManagerによるシステム監視も一時的に不可になります。タイムアウトなどになりましたら、アクティブEMのリブートが完了した後に再接続するようにしてください。

適用せずに中止する場合は、“N”の位置で [Enter] ボタンを押下してください。何もせずに「EM CONFIG」画面に戻ります。



適用せずに中止した場合でも設定ファイルの読み込みは実行されておりますので、EMの次回起動時、あるいは、コマンドラインから “apply” コマンドを実行すると設定ファイルの内容が適用されることになります。

USBメモリが装着されていない場合は、以下の表示となります。ブレード収納ユニットのUSBポートにUSBメモリを装着してください。

USB Memory
Not installed

USBメモリが装着されていても、EMに接続されていない場合は、以下の表示となります。

Media
Not selected

KVM/DVD選択画面のDVDの選択で、“E”を選んでください。
USBメモリ内にリストアするファイルが見つからない場合は、以下の表示となります。

File
Not found



設定ファイルはUSBメモリの先頭ディレクトリ(先頭フォルダ)のファイル名
“backupem.tgz”のファイルとなります。

設定ファイルの読み込みに失敗すると、以下の表示となります。

Error

読み込んだ設定ファイルが妥当でない場合は、以下の表示となります。

CONF File Error



上記のエラーメッセージが表示されている状態で、何かボタンを押すと、「EM CONFIG」画面
に戻ります。

EMファームウェアのアップデート

ブレード収納ユニットのUSBポートに接続されたUSBメモリから、あるいは、ブレード収納ユニットのDVDドライブにセットしたCD媒体から、EMファームウェアのアップデートを実行します。

「EM CONFIG」画面で、「8:FW Update」を選択すると、「FW Update Sub」メニューが表示されます。

[FW Update Sub] メニュー

```
FW Update Sub
1:EM Firmware
```

ここで、「1:EM Firmware」を選択すると、「EM Firmware Sub」メニューが表示されます。

[EM Firmware Sub] メニュー

```
FW Update Sub
1:Show CUR REV ↓
↓ ↑
1:Show CUR REV ↑
2:EXEC Update ↓
↓ ↑
2:EXEC Update ↑
3:Backup FW ↓
↓ ↑
3:Backup FW ↑
4:Switchover
```

「EM Firmware Sub」で、「1:Show CUR REV」を選択すると、アクティブEMの現在のファームウェアレビジョンが表示されます。

```
Show CUR REV
02.00
```

何かボタンを押すと、「EM Firmware Sub」画面に戻ります。

「EM Firmware Sub」で、「2:EXEC Update」を選択すると、メディア選択画面に移行します。

メディア選択画

Select Media
USB/DVD

[→],[←]ボタンを押下することで、カーソルを“USB”と“DVD”とに移動させることができます。アップデートファイルがあるメディアの位置にカーソルを置いて [Enter]ボタンを押下してください。

アップデート実行確認画面が表示されます。

EXEC Update OK?
Y/N

[→],[←]ボタンを押下することで、カーソルを“Y”と“N”に移動させることができます。アップデートを中止する場合は、“N”の位置で [Enter]ボタンを押下してください。何もせずに「EM Firmware Sub」画面に戻ります。アップデートを実行する場合は、“Y”の位置にカーソルを置いて [Enter]ボタンを押下してください。

アップデートが正常に開始されると以下の画面が表示されます。

Update Started

何かボタンを押すと、「EM Firmware Sub」画面に戻ります。

アップデート実行中に「EM Firmware Sub」で、「2:EXEC Update」を選択すると、以下の画面が表示されます。

In Update

何かボタンを押すと、「EM Firmware Sub」画面に戻ります。



本機能で行うアップデートは、アクティブEMに対して実行されます。アップデートが実行されると、対象のEMは自動的にリブートを実行します。

EMカードを2枚構成でご利用の場合は、EMのスイッチオーバが起動し、アクティブEMが切り替わります。

EMカードを1枚構成でご利用の場合は、EMのリブート中、ブリッジ機能やSNMP機能も停止しますので、CPUブレードやスイッチモジュールのマネジメントLANを介した接続が一時的に切断されます。また、ESMPRO/ServerManagerによるシステム監視も一時的に不可になります。タイムアウトなどになりましたら、EMのリブートが完了した後、再接続するようにしてください。

メディア選択画面でUSBを選択した際にUSBメモリが装着されていない場合は、以下の表示となります。

ブレード収納ユニットのUSBポートにUSBメモリを装着してください。

USB Memory
Not installed

USBメモリが装着されていても、EMに接続されていない場合は、以下の表示となります。

Media
Not selected

KVM/DVD選択画面のDVDの選択で、“E”を選んでください。USBメモリ内にアップデートファイルが見つからない場合は、以下の表示となります。

File
Not found



アップデートファイルは、USBメモリの先頭ディレクトリ(先頭フォルダ)の以下のファイル名のファイルが対象となります。

—“em.kernel”	カーネルイメージファイル
—“em.rfs”	ファイルシステムイメージファイル
—“u-boot.bin”	u-bootイメージファイル

メディア選択画面でDVDを選択した際にDVDドライブにCD媒体がセットされていない場合は、以下の表示となります。

ブレード収納ユニットのDVDドライブにCD媒体をセットしてください。

DVD
Not installed

CD媒体がドライブにセットされていても、EMに接続されていない場合は、以下の表示となります。KVM/DVD選択画面のDVDの選択で、“E”を選んでください。

Media
Not selected

KVM/DVD選択画面のDVDの選択で、“E”を選んでください。
CD媒体内にアップデートファイルが見つからない場合は、以下の表示となります。

File
Not found



アップデートファイルは、CD媒体の“EMFW”ディレクトリ(フォルダ)の以下のファイル名のファイルが対象となります。

—“em.kernel”	カーネルイメージファイル
—“em.rfs”	ファイルシステムイメージファイル
—“u-boot.bin”	u-bootイメージファイル

アップデートファイルの読み込みに失敗すると、以下の表示となります。

Error

何かボタンを押すと、「EM Firmware Sub」画面に戻ります。

EMファームウェアのバックアップ

ブレード収納ユニットのUSBポートに接続されたUSBメモリへ、EMファームウェアのバックアップを実行します。

「EM Firmware Sub」で、「3:Backup FW」を選択すると、EMファームウェアバックアップ確認画面が表示されます。

Backup FW OK?
Y/N

[→],[←]ボタンを押下することで、カーソルを“Y”と“N”に移動させることができます。バックアップを中止する場合は、“N”の位置で [Enter] ボタンを押下してください。何もせずに「EM Firmware Sub」画面に戻ります。バックアップを実行する場合は、“Y”の位置にカーソルを置いて [Enter] ボタンを押下してください。

既にUSBメモリ上にEMファームウェアのバックアップファイルが存在する場合は、以下の上書き確認画面が表示されます。

Overwrite?
Y/N

[→],[←]ボタンを押下することで、カーソルを“Y”と“N”に移動させることができます。上書きせずにバックアップを中止する場合は、“N”の位置で [Enter] ボタンを押下してください。何もせずに「EM Firmware Sub」画面に戻ります。上書きしてバックアップを実行する場合は、“Y”の位置にカーソルを置いて [Enter] ボタンを押下してください。

バックアップ実行中は以下の画面が表示されます。

Backu p i n g F W

バックアップが終了すると結果が表示されます。

バックアップ成功時:

O K

バックアップ失敗時:

E r r o r

USBメモリが装着されていない場合は、以下の表示となります。
ブレード収納ユニットのUSBポートにUSBメモリを装着してください。

USB Memory
Not installed

USBメモリが装着されていても、EMに接続されていない場合は、以下の表示となります。

Media
Not selected

KVM/DVD選択画面のDVDの選択で、“E”を選んでください。



- バックアップの結果や上記のエラーメッセージが表示されている状態で、何かボタンを押すと、「EM Firmware Sub」画面に戻ります。
- EMファームウェアのバックアップファイルは、USBメモリの先頭ディレクトリ（先頭フォルダ）に書き込まれます。
ファイル名は、“emfw.tgz”となります。



EMファームウェアのレビジョンが、Rev.01.XX 系の場合は、SIGMABLADEモニター上からアップデートする機能は実装されておりませんので、当機能でバックアップしたEMファームウェアをRev.01.XX 系のEMファームウェアに適用する場合は、CLIコマンドによるEMファームウェアのアップデートで行ってください。

EMスイッチオーバー

「EM Firmware Sub」で、「4:Switchover」を選択すると、EMスイッチオーバー確認画面が表示されます。

S w i t c h o v e r O K ?
Y / N
_

[→],[←]ボタンを押下することで、カーソルを“Y”と“N”に移動させることができます。スイッチオーバーを中止する場合は、“N”の位置で [Enter] ボタンを押下してください。何もせずに「EM Firmware Sub」画面に戻ります。スイッチオーバーを実行する場合は、“Y”の位置にカーソルを置いて [Enter] ボタンを押下してください。

スイッチオーバーが終了すると結果が表示されます。

スイッチオーバー成功時:

O K

スイッチオーバー失敗時:

E r r o r

スタンバイEMが正常に動作していない場合:

S t a n d b y E M i s
n o t r e a d y .



スイッチオーバーの結果や上記のエラーメッセージが表示されている状態で、何かボタンを押すと、「EM Firmware Sub」画面に戻ります。

ログ採取

EMログ採取

アクティブEMのログ情報をブレード収納ユニットのUSBポートに接続されたUSBメモリ上へセーブします。

メインメニューで「6:Collect LOG」を選択すると、下記に示すログ採取サブメニューが表示されます。

```
Collect LOG Sub  
1:EM
```

「1:EM」を選択すると、EMログの採取が開始されます。

既にUSBメモリ上にEMログファイルが存在する場合は、以下の上書き確認画面が表示されます。

```
Overwrite?  
Y/N
```

[→],[←]ボタンを押下することで、カーソルを“Y”と“N”に移動させることができます。

上書きせずにEMログ採取を中止する場合は、“N”の位置で[Enter]ボタンを押下してください。何もせずに「Collect LOG Sub」画面に戻ります。

上書きしてEMログ採取を実行する場合は、“Y”の位置にカーソルを置いて[Enter]ボタンを押下してください。

EMログ採取実行中は、以下の画面が表示されます。

```
Collecting LOG
```

EMログ採取が終了すると結果が表示されます。

バックアップ成功時:

```
OK
```

バックアップ失敗時:

```
Error
```

USBメモリが装着されていない場合は、以下の表示となります。
ブレード収納ユニットのUSBポートにUSBメモリを装着してください。

USB Memory
Not installed

USBメモリが装着されていても、EMに接続されていない場合は、以下の表示となります。

Media
Not selected

KVM/DVD選択画面のDVDの選択で、“E”を選んでください。



- EMログ採取の結果や上記のエラーメッセージが表示されている状態で、何かボタンを押すと、「Collect LOG Sub」画面に戻ります。
- EMログファイルは、USBメモリの先頭ディレクトリ(先頭フォルダ)に書き込まれます。ファイル名は、“collectem-XXX.XXX.XXX.XXX-YYMMDD-HHMMSS.tgz”となります。

XXX.XXX.XXX.XXX ログ採取対象EM(アクティブEM)のIP
YYMMDD-HHMMSS ログファイル作成日時

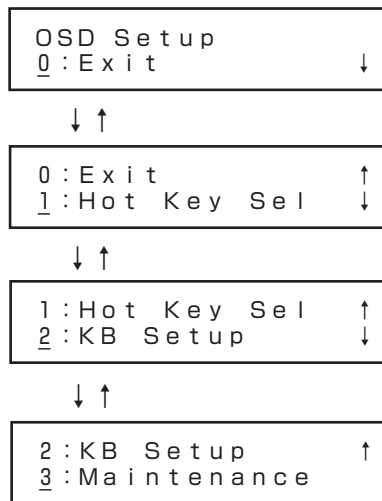
OSD(On Screen Display)の設定

SIGMABLADEモニター制御マイコンのOSD機能/KVM制御機能の設定を行います。

[Menu]ボタンを4秒以上押下すると下記のようにOSDセットアップメニューが表示されます。



[↓]ボタンまたは[↑]ボタンを押下することで、カーソルを上下に移動させることができます。
画面は以下のようにスクロールします。



目的のメニューにカーソルを合わせて[Enter]ボタンを押下すると、選択したサブメニューに移行します。

[0:Exit]を選択した場合は[OSD Setup]メニューを終了します。

[Menu]ボタンまたは[←]ボタンを押下すると[OSD Setup]メニューを終了します。

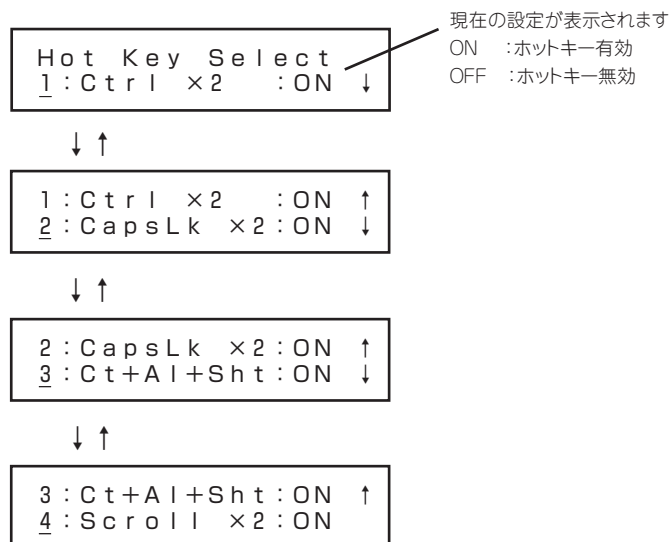


下にスクロール可能な場合は「↓」を、上にスクロール可能な場合は「↑」を最右端カラムに表示します。

OSDホットキーの設定

OSD機能を起動するホットキーの設定をします。

OSDセットアップメニューで「1:Hot Key Sel」を選択すると、下記に示す[Hot Key Select]メニューが表示されます。



[Enter]ボタンを押下することで、ホットキーの設定ON(有効)／OFF(無効)を切り替えます。

[←]ボタンを押下すると[OSD Setup]メニューに戻ります。

[Menu]ボタンを押下すると[OSD Setup]メニューを終了します。

項目	説明
1: Ctrl x 2	<Ctrl>キーを2回押下するホットキーの設定です。 このホットキーでOSD簡易モードを起動します。
2: CapsLk x 2	<Caps Lock>キーを2回押下するホットキーの設定です。 このホットキーでOSD簡易モードを起動します。
3: Ct + Al + Sht	<Ctrl>, <Alt>, <Shift>キーを同時に押下するホットキーの設定です。 このホットキーでOSDメニューモードを起動します。
4: Scroll x 2	<Scroll Lock>キーを2回押下するホットキーの設定です。 このホットキーでOSDメニューモードを起動します。



出荷時の初期設定はすべてのホットキーがON(有効)となっています。
オプションのサーバスイッチユニットを接続し、サーバスイッチユニット側で同じホットキーを使用する場合、有効なキーが重複しないように設定してください。
ホットキーと同じキーがアプリケーション等で重複して使用されている場合、有効なキーを選択して回避してください。

キーボードタイプの設定

ブレード収納ユニットに接続するキーボードのタイプを設定します。

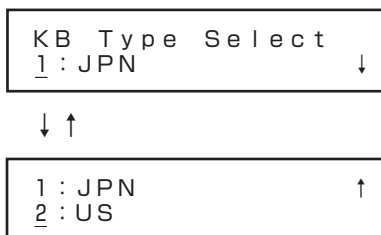
OSDセットアップメニューで「2: KB Setup」を選択すると、下記に示す[Keyboard Setup]メニューが表示されます。



[Enter]ボタンを押下すると「KB Type Select」メニューが表示されます。

[←]ボタンを押下すると[OSD Setup]メニューに戻ります。

[Menu]ボタンを押下すると[OSD Setup]メニューを終了します。



「1: JPN」を選択して[Enter]ボタンを押下するとキーボードタイプの設定がJPNに変更されます。

「2: US」を選択して[Enter]ボタンを押下するとキーボードの設定がUSに変更されます。

[←]ボタンを押下すると[Keyboard Setup]メニューに戻ります。

[Menu]ボタンを押下すると[OSD Setup]メニューを終了します。



初期設定は JPN(日本語キーボード)です。

ヒント

メンテナンスメニュー(保守用メニュー)

保守用のメニューを表示します。通常は使用する必要はありません。

OSDセットアップメニューで「3:Maintenance」を選択すると、下記に示すPasscode入力画面が表示されます。誤って[Maintenance]メニューを選択した場合は[←]ボタンを押下すると[OSD Setup]メニューに戻ります。

[Menu]ボタンを押下すると[OSD Setup]メニューを終了します。

Enter Passcode 0

OSDの設定保存

[Hot Key Select]または[KB Setup]で設定を変更してOSDセットアップメニューを終了する場合に保存メニューが表示されます。

Save Changes? 1 : Yes	↓
↓ ↑	
1 : Yes 2 : No	↑

「1:Yes」を選択して[Enter]ボタンを押下すると設定変更を保存して[OSDSetup]メニューを終了します。

「2:No」を選択して[Enter]ボタンを押下するか、[Menu]ボタンを押下すると設定変更を保存しないで[OSD Setup]メニューを終了します。



保存した設定はブレード収納ユニットの電源がOFFになっても保持されます。

SIGMABLADEモニター診断

診断処理の実行

ブレード収納ユニットの電源がONになるとITF（イニシャル・テスト・ファームウェア）によるSIGMABLADEモニターの診断処理を行います。

診断中、Powerランプは緑色点灯、Statusランプは赤色点灯します。

診断項目

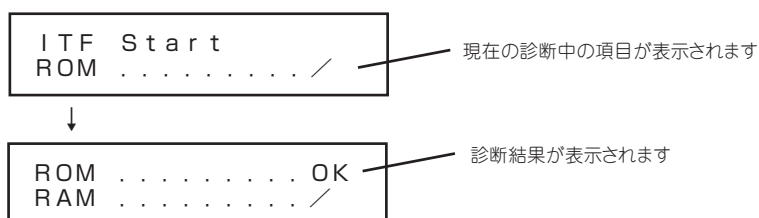
項目	診断内容
ROM	SIGMABLADEモニター制御マイコンの内蔵ROMの診断を行います。
RAM	SIGMABLADEモニター制御マイコンの内蔵RAMの診断を行います。
I2C	EMカードと通信するI2Cインタフェースの診断を行います。
LCD	LCDの診断を行います。
Button	ボタン入力の診断を行います。
ADC	SIGMABLADEモニター制御マイコンの内蔵A/Dコンバータの診断を行います。
OSD	OSD制御デバイスの診断を行います。
Keyboard	PS/2キーボードコントローラの診断を行います。
Mouse	PS/2マウスコントローラの診断を行います。
USB	USBコントローラの診断を行います。

診断中の表示

診断実行中はLCDに診断内容を表示します。

各診断の実行中はLCDの下段に診断項目を表示し、各診断が終了すると上段に診断項目と結果を表示します。

正常終了した場合は、右端に「OK」を表示し、異常を検出した場合は、右端に「Err」を表示します。



診断終了の表示

全ての診断が正常に終了した場合、LCD下段に約1秒間表示します。

```
USB . . . . . OK
ITF Normal End
```

異常が検出された場合、LCDの下段に約1秒間表示します。

```
USB . . . . . OK
ITF Abnormal End
```

診断終了後、システムステータスが表示されるまでの間、下記のようにKVM/DVDの選択状態を表示します。また、システムステータスが表示されるまではSIGMABLADEモニターのStatusランプは赤色点灯のままです。

```
KVM/DVD Select
KVM:1    DVD:1
```

致命的なエラーが検出された場合、LCD下段に[HALT]表示し、SIGMABLADEモニターの動作を停止します。致命的なエラーには次の3つのエラーがあります。

ROM診断エラー

RAM診断エラー

I2C診断エラー

```
ROM . . . . . Err
HALT
```

```
RAM . . . . . Err
HALT
```

```
I2C . . . . . Err
HALT
```



ITF Abnormal Endとなった場合、SIGMABLADEモニターの機能の一部が使用できなくなります。HALTとなった場合はSIGMABLADEモニターの機能が使用できません。保守サービス会社に連絡してください。

EMカード異常時の表示

EMカードによるSIGMABLADEモニターの制御に異常が発生した場合、下記のように表示されます。この場合は、KVM/DVDの選択切り替えとOSDセットアップメニューの操作のみ可能です。システムステータスの表示、メインメニューの操作はできません。



SIGMABLADEモニターのランプ表示は下記のようになります。

Powerランプ 緑色点灯

Statusランプ 赤色点灯

IDランプ IDスイッチの押下で点灯／消灯を切り替えます。

KVM/DVDの切り替え

[Enter]ボタンを押下するとKVM選択番号またはDVD選択番号の位置にカーソルを表示し、選択操作を開始します。

[↑][↓]ボタンを押下することでカーソル上の選択番号を1～8、E(EはEMの選択を示します)の範囲で1つずつ変更できます。選択番号を変更すると番号とカーソルがブリンク表示に変わります。変更後、[Enter]ボタンを押下するとカーソルで選択中のKVMまたはDVDの切り替えを実行します。選択番号がしばらくブリンク表示し、切り替えが終了するとブリンクが停止します。

[←][→]ボタンを押下することでカーソルを左右に移動させKVMの選択とDVDの選択を変更することができます。選択番号変更中に[←][→]ボタンを押下した場合は元の選択番号に戻ります。操作中、約30秒以上ボタン操作が無い場合、切り替えを行わず選択操作を終了します。



EMカード異常時にもKVM、DVDの切り替え操作ができますが、保護機能によりKVM、DVDの接続を行わない場合があります。操作したいCPUブレードに正しく選択を変更しても動作しない場合はEMカードを正常な状態に回復してから接続を確認してください。



EMカード異常時は、DVDの選択で“E”を選択しないでください。

